

令和7年度一般財団法人佐渡文化財団事業計画

I 基本方針

新年度は、市内の文化・芸能団体調査において取材件数が少ない地域を更新しながら佐渡文化財団アクションプランと佐渡市文化振興ビジョンアクションプランに定められた事業に取り組み、佐渡の豊かな文化の保存・継承の支援を進めていきます。

前年に引き続き、次世代の担い手作りや後継者育成を念頭に置いた講習会やワークショップ等を実施します。また、小中高校のキャリア教育事業に取り組んでいきます。

令和6年度に初めて実施した、複合的なワークショップ・上演の経験を応用させ、芸能の常設に向けた事業を新展開し、より市民への認知度向上に努めます。

不在の常勤役員の選任を通して自立した組織体制を確立し、賛助会員の拡大や補助金を活用した事業展開など安定的な財団運営に努めていきます。

II 総務概要

健全で安定的な運営体制の構築

【事業の趣旨・方向性】

これまで不在であった常勤役員（専務・常務）の選任により、安定した財団運営を展開しながら事業を進めていきます。

経常収益の拡充のため、支援など目標値を設定し、その目標値を達成する行動を起こします。

【令和7年度における具体的業務】		
(1)	組織体制の安定化	
(2)	収益事業の拡充	
(3)	理事の改選	
(4)	文化財団アクションプランの見直し	
【令和7年度における予算額】		22,265 千円
(1)	人件費 22,493 千円	21,353 千円
(2)	事務費 903 千円	912 千円

III 事業概要

1 伝統芸能の継承者育成

【事業の趣旨・方向性】

佐渡に残る伝統芸能の継承について、少子高齢化が進む佐渡においては最重要課題となっています。市内の文化団体・芸能保存会の現況調査結果を基に各団体とヒアリングを重ね、課題を分析し継承に必要な事業や支援に取り組めます。

【令和 7 年度における具体的業務】	
(1) 市内の文化団体・芸能保存会に係る調査結果の更新	
(2) 映像記録 神事や観光祭などで披露される芸能の記録 佐渡の文化・芸能に長年携わってきた方へのインタビュー記録	
【令和 7 年度における佐渡市文化振興ビジョンアクションプラン取組】	
(1) 「インターネット配信などを活用したハイブリッド公演」 目標値：検討・試験実施 福祉施設等をつないだハイブリッド配信や芸能常設の事業とも連動させる	
(2) 「NPO 等の文化振興組織間の情報共有」 目標値：市との連携及び積極的な意見・提案	
(3) 「国民文化祭や県民文化祭の活用」 目標値：団体の出演 2 団体	
(4) 「個々の伝統芸能保存団体が連携するネットワークを構築する」 目標値：芸能団体の情報の新規収集 30 件	
(5) 「伝統文化の継承等への功績顕著な個人や団体に対する表彰制度」 目標値：推薦者数 3 人	
【令和 7 年度における予算額】	329 千円

2 伝統芸能の常設披露にむけた上演の場の創出

【事業の趣旨・方向性】

令和 6 年度に実施した「佐渡芸能と伝統食に触れてみる一日」の経験を活かし「鬼太鼓」「人形芝居」「民謡」から 1 団体ずつ年 10 回程度の芸能上演とミニ WS を短時間で実施します。また真野新町の山本邸玄関内で人形芝居の Live 配信を実験的に行い、同邸宅の文化事業活用への足掛かりとします。

【令和 7 年度における具体的業務】	
試験的常設披露「佐渡芸能に触れてみる 1 時間」(仮) の実施	
【令和 7 年度における佐渡市文化振興ビジョンアクションプラン取組】	
「伝統芸能がいつでも誰でも鑑賞できる拠点づくり」 目標値：施設における芸能披露実施数 13 件	

上記、事業を含め芸能を披露する企画を実施する。単独のみならず他関係者との共催、連携も含む。	
【令和 7 年度における予算額】	501 千円

3 キャリア教育支援及び文化活動担い手育成

【事業の趣旨・方向性】

子どもたちは、佐渡の伝統文化に携わる人や物に触れる経験を通し、具体的な郷土愛やアイデンティティを確立していきます。学校授業や課外活動に対する和楽器貸出により、文化的キャリア教育を支援していきます。

また、島内への移住者が文化的事業に積極参加できるような体験の場の創出、伝統芸能の学習研修会や伝統工芸のワークショップを開催し、継承者の養成に努めます。令和 2 年度から継続している就労支援事業も関係機関と連携しながら進めていきます。

【令和 7 年度における具体的業務】	
(1) 学校、一般等への和楽器等貸出	
(2) 就労支援として製造から販売までの循環システムの構築（継承活動）	
【令和 7 年度における佐渡市文化振興ビジョンアクションプラン取組】	
(1) 「幅広い分野を幅広い世代が学ぶことができる学習機会の提供」 目標値：市民の学びの場の提供 財団が主催する講習会、研修会等と兼用	
(2) 「佐渡文化財団の行う伝統芸能等のワークショップの実施」 目標値：ワークショップ等の実施 10 件 財団が主催する講習会、研修会、ワークショップと兼用 （「唄と三味線の日 in 馬川邸」など）	
(3) 「佐渡学のアウトプットの場の設定」 目標値：アウトプットの場 市、教育委員会等と調整し、実施。その後、修正する。	
(4) 「子どもが触れる伝統文化親子教室の創出・充実」 目標値：伝統文化親子教室の実施 2 件 佐渡人形芝居親子教室の実施、土人形親子教室の実施。	
【令和 7 年度における予算額】	939 千円

4 支援会員の拡大

【事業の趣旨・方向性】

佐渡文化財団の認知度向上と賛助会員の増加に向け、定めた目標値に向けて積極的に営業活動を行います。

【令和7年度における具体的業務】	
(1) 既存寄付者への依頼（4月）	
(2) 財団の認知度向上と賛助会員加入促進活動	
(3) 特典の検討・充実	
【令和7年度における予算額】	414 千円

5 情報発信の強化

【事業の趣旨・方向性】

佐渡文化の状況がわかるタイムリーな発信と佐渡文化財団の取組を理解していただく発信に努めます。また芸能の内容をわかりやすく届ける取り組みをし、実際の上演や芸能・文化への関心に結びつく発信を行います。

【令和7年度における具体的業務】	
(1) 既存のホームページの活用工夫や改良	
(2) ニュースレターの継続発行	
(3) フォロワー数増加につながるSNS発信と充実	
【令和7年度における予算額】	58 千円

その他

【事業の趣旨・方向性】

自主財源確保及び経営基盤の確立にむけ、佐渡の文化・芸能を活用した受託事業や、物販事業の積極的な企画・提案を行い収入の確保を図っていきます。

【令和7年度における具体的業務】	
(1) 佐渡人形芝居親子教室（文化庁補助金申請）	
(2) 物販事業、ふるさと納税の活用	
(3) その他、事業費（按分）	
【令和7年度における予算額】	1,846 千円